

2015. 12. 17 : 平成 27 年第 5 回定例会 (第 4 日)

○15 番 (川上陽平) 登壇 皆さん、お疲れさまです。私は、自由民主党福岡市議団を代表して、M I C E 都市の推進について、この 1 問に絞って質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

私は、かねてより企業等が行う会議や奨励旅行、各種団体や学会等が行うコンベンション、さらには展示会やイベント等のいわゆる M I C E の振興が福岡市の将来の発展にとって非常に重要であると考えております。

その M I C E の中でも、大規模国際スポーツ大会は、トップレベルのプレーを身近に感じたり、選手と交流したりすることなどを通じた市民スポーツの振興、大会や参加選手などのニュースが全世界に配信されることによる都市ブランド力の向上、さらには大会参加者や多くの観客が訪れることによる大きな経済効果などを考えると、その中核になるものと確信しておりました。ことしの 9 月から 10 月にイングランドで開催され、福岡市出身の五郎丸選手を初めとする日本代表の大活躍により、日本中が、いえ、世界中が子どもから大人まで大いに盛り上がったラグビーワールドカップを見て、さらにその考えを強くしたものでございます。

特に、世界水泳選手権は、こうした青少年の健全育成の効果や経済効果が非常に高いすばらしい大会であると感じており、10 月の決算特別委員会の総会質疑で私が行った、「スポーツコミッション事業について」においても、その招致についてお尋ねいたしました。その質問において、世界水泳選手権の概要や 2001 年の福岡での開催状況等をお聞きした上で、開催した場合に福岡市にもたらされる大きな効果に鑑み、2021 年の開催に向けて、積極的に招致してはどうかとお尋ねしたところ、市民局長から、関係機関、団体と協議しながら検討する旨の答弁をいただいたところでございます。

その後、新聞やテレビなどでさまざまな報道がなされていますが、現時点では、福岡市としてこの大会の招致について、まだ正式な方針を表明していないと理解しております。そのため、今回改めて、世界水泳選手権招致に関する検討状況をお聞きし、再度、招致に向けて取り組まれるよう要請したいと考えております。

それでは、決算特別委員会でもお聞きしましたが、改めて、世界水泳選手権の概要についてお答え願います。

以上、1 問目を終わり、2 問目から自席で行います。

○15 番 (川上陽平) こうしてお聞きすると、やはり世界水泳選手権は高い効果をもたらす、すばらしい大会であることが改めてわかります。

それでは次に、既にテレビやニュース等ではさまざまな報道がなされておりますが、改めて詳細についてお聞きします。

開催都市決定のスケジュールと他の立候補都市の状況について、正確な情報をお教えてください。

○15 番（川上陽平） 開催都市決定が来年の1月下旬ということであれば、あとわずか1カ月半しかありません。非常に厳しいスケジュールであると考えます。

また、ドーハといえば、日本も開催国に立候補していた2022年のFIFAワールドカップ招致に成功したカタールの首都であり、このところ経済的な発展も著しく、潤沢なオイルマネーと充実した施設を有する強敵なのではないでしょうか。こうして置かれている状況を考えると、すぐにでも対応を決定し、行動に移るべきであると思っております。

とはいえ、一方で市として対応を検討する上では、当然、市民の皆様、関係団体の皆様の声によくよく耳を傾け、そうした声を真摯に受けとめながら、慎重に判断をしていくことが重要であるとも考えております。

そこで、関係機関、団体等から福岡市が立候補を検討していることについて、現状でどのような反応があっているのか、お教えてください。

○15 番（川上陽平） 市民、経済界、議会、行政など市全体が一つにまとまって盛り上がった上での1995年ユニバーシアードの成功、2001年世界水泳選手権の成功、2013年のフィギュアスケートグランプリファイナルの成功であり、そのような動きがあったことは、招致を考える上で非常に心強いことだと思います。特に日本水泳連盟の決議に至っては、日本で開催するなら福岡市でという明確な意思表示であり、当然、それに応えるべく前向きな検討が行われているものと信じております。

また、つい先日、国際水泳連盟の幹部が福岡市の施設候補を視察したと聞いております。2001年の福岡大会において、世界で初めて仮設の50メートルプールを使用するなど、世界水泳選手権におけるエポックメイキング的な成功をおさめており、国際水泳連盟における福岡市の評価はもともと高いとも聞いておりますが、それ以降の福岡市のまちの発展やすばらしさを直接目で見て感じていただくことは、開催都市決定に向けて非常に重要な意味があるのではないかと思います。

今回の視察は、その唯一で、かつ最後の機会であったと思われませんが、その視察がどのように行われ、福岡市の評価がどのようなものだったのかをお教えてください。

○15 番（川上陽平） 世界水泳選手権の主催者であり、これまで世界中の大都市の視察を実施してきたであろう国際水泳連盟から高い評価をいただいたことは、福岡市は都市として持っている実力に改めて自信を持っていいのではないのでしょうか。

また、関係機関、団体等から応援をいただき、背中を押されている状況を考えれば、あとは市としての方針を決めるだけだと思われそうです。

私としましては、今こそ、これらの温かい支援の声をしっかりと受けとめ、福岡市が新たな飛躍を遂げ

られるよう、市としてこの素晴らしい大会を招致する判断を下すべきときであると考えますが、高島市長の御所見をお伺いいたします。

○15 番（川上陽平） 市長の力強い決意をお聞きして、大変うれしく思っております。しかし、スケジュールは1月下旬の開催都市決定と、非常にタイトで、しかも、ライバルであるカタールのドーハは強力です。少しでも気を抜けば、かつてのオリンピックの招致のときのように悔しい思いを味わうことになりかねません。ここは、ぜひ全市一丸となって取り組んでいただき、招致を実現していただければと思います。そして、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピックに引き続き、2021年の世界水泳選手権が福岡市で開催され、2001年と同様、いや、それ以上に大きな盛り上がりを見せ、日本中の、さらには世界の話題の中心に福岡市での大会開催が上ることを楽しみにしております。

冒頭でも申し上げましたが、大規模国際スポーツ大会の開催は、全世界への報道等を通じた都市ブランド力の向上、スポーツの振興を通じた青少年の健全育成や市民の健康づくり、莫大な経済効果による地元経済の活性化など、福岡市がさらなる飛躍を果たし、新たな段階へとステップアップしていく上で欠かせない存在であり、世界水泳選手権はもとより、それ以外の大会についても、その招致に向けて積極的な取り組みを進めていただけるよう再度要望し、私の質問を終わります。